

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年5月16日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671200527
法人名	医療法人 サンライフ
事業所名	国分府中グループホーム
所在地	鹿児島県霧島市国分府中町13番15号 (電話)0995-48-6613
自己評価作成日	平成31年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年5月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方に、家庭的な環境の中で、いきいき のびのび ゆったりとした生活を送っていただけるようにご支援させていただいています。それぞれの方が、ご自身の意思での生活のペースや活動を決めて、自立心、自信を持ちながら、人とふれあいの中で、楽しみや喜びのある暮らしを継続できるように努力しています。

医療機関の併設であり、急病時は迅速な対応に心掛けています。ご家族の訪問が多く、ご家族との外出支援も行っており、一緒に過ごす時間を大切にしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、母体医療機関に隣接した建物の2階に開設されている。母体医療機関とは定期受診や往診等の24時間の医療連携体制が整っており、利用者・家族の医療面における安心に繋がっている。
- ・利用者の高齢化・重度化により地域行事への参加は困難になっているが、食事介助や車椅子レクの定期的なボランティアを受け入れたり、同一建物内のデイサービス行事への参加等で、事業所外との交流に努めている。市の依頼で管理者がライフサポートマスターとして活動し、地域貢献にも取り組んでいる。
- ・管理者は、職員全体で同じ方向を向いたケアに取り組むことを目指して、年度の目標設定を個人から全体に変更する等、日頃から業務の改善に努めている。
- ・代表者は、職員の質の向上を図るため、資格取得や研修受講の支援制度を設けている。調理担当職員の配置やケア時の2人介助、ロボットクリーナーの導入等により、サービスの向上と職員の負担軽減を図り、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を掲示している。毎年、職員は理念に沿った自己目標を作り4月に到達点の見直しをしている。職員会議では目標に向けての経過発表をして、理念の意識を高め、利用者の意思尊重した、ケアの方向性を検討している。	理念は目につきやすいリビングに掲示している。年度目標として、職員が同じ方向を向いたケアに取り組む事を全体目標としている。毎月の職員会議時に理念・目標を確認し、ケアの振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表は、法人設立以前より公民会の一員で、地域との交流は長く続いている。H30年度、国のモデル地域指定を受けた（自主防災組織連絡ネットワーク構築事業）に参加し、避難場所の提供、人員支援などの相互協力に関して地区公民館と連絡を取り交わしている。	自治会に加入している。重度化等により地域行事への参加は困難であるが、デイサービスとの合同イベントやボランティア受け入れに取り組んでいる。地域のモデル事業への参加や市の依頼でライフサポートマスター活動等を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の中で、地域の方や家族にホームの行事案内をしている。利用者の状況を報告し意見交換できる時間になっている。管理者は市のライフサポートマスターとして地域活動に参加している。昨年、職員一人がライフサポートワーカーとして認定を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議で意見交換したことを記録に残し、職員、家族に報告している。意見から改善点が出されたときは職員会議で話し合いを持つことにしている。</p>	<p>2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、事業所のヒヤリハットを含めた状況報告と意見交換を実施している。モデル事業の進捗状況報告や意見交換から、防災に関する地域の情報を得ている。今後、近隣の小規模多機能ホームとの連携を進め、地域の防災に活かす予定である。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、介護認定手続き等で担当窓口に足を運んでいる。市が開催する研修会に参加し、身近に相談できる機会を作っている。</p>	<p>市の担当者とは、運営推進会議等で連携を取り、気軽に相談できる関係を築いている。市の研修会や会議に参加し、情報交換に努めている。ライフサポートマスター活動を市の依頼で実施する等、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>年1回の学習会を行っている。昨年は、手術後の利用者がベッド上での活発な動きからの転倒を予防するために、やむをえず4点柵を使用した。現在は安定し、拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	<p>適正化委員会として指針を基に、毎月法人で話し合っている。年1回研修を実施し、不適切な言葉遣いについては、会議時に話し合っている。玄関の施錠はせず、利用者の気持ちに沿った拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	家族職員がストレスをためないように、気持ちを伝えやすい環境、勤務体制の工夫を行い、リフレッシュがはかれるように配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	H30年3月に外部講師による学習会を行った。今年も学習計画に入れている。制度の相談手順は理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、文書での説明、確認を行い、質問や不安なことを尋ねるなどして、理解し安心できるような心掛けている。改定時には、文書で個々に説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議において、利用者や家族にも参加していただき意見要望を聞いている。行事や日常での訪問された機会にも困りごとや要望について尋ね記録に残している。	利用者には、介護相談員との面談、日常の会話で意見等を聞いている。家族には、運営推進会議や面会時に要望等を聞いている。本人の好みに合わせて厚着や薄着にして欲しいとの要望があり、本人に衣類の選択を確認しながら対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所内では、毎月開かれる職員会議、学習会で、業務上の気づき、問題点について対応が考えられ改善されている。また、各部署代表により、法人連絡会が定期・臨時で開かれ、各事業所に問題点・要望などについて解決に向けて協力調整がはかられている。	管理者は、日常の業務の中や毎月の職員会議で職員の提案等を聞いている。複数名の食事介助を時間差で実施することで、他の利用者に対応する職員を2名確保し、利用者の安全と職員の負担軽減が同時に図られるよう、ケアのやり方を工夫している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務状況・研修・学習努力の成果は、各種提出物に目をとすことや管理者を通して把握するよう努め、昇給手当などに反映している。法人内5S活動の中で環境整備、業務改善については意見交換の場がある。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力適正については、日頃の勤務態度や管理者の評価を基に判断している。法人内研修には案内を出している。法人外研修の参加については、規定に基づいて勤務の調整、費用負担、奨励金支給などを実施している。また、得たものを確実なものに出来る様、他職員への伝達する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、地域密着型事業者連絡会に加入しており、会合や研修会に参加することにより、情報交換、伝達の場がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	気軽に声を掛けていただけるような環境づくりに努めている。 初期モニタリング記録により、不安なこと、こだわりなどをスタッフ全員で情報を得て、皆で関わられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの意見や相談内容を踏まえて、できるだけこれまでの過ごし方ができるような環境に配慮し、又生活支援の中で何かあれば職員からも家族に相談し、一緒に支援方法を考えていきながら、信頼関係が気づけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討する段階で困りごとをうかがい、グループホームが適応であるか、ご本人の望む生活に適した環境になるか、十分に考慮し、助言を行い決定してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で役割を持っていただける様に、やりたい事できる事を手伝っていただく。お盆拭き、食事盛り付け、洗濯畳み、新聞畳み、台拭きなど、自然に役割ができてくる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かく生活の様子を記録し家族に伝えている。状態変化があったら随時連絡し、生活支援や病気治療の相談を行って方向性を決めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をいただき、なじみの場所へ外出できる機会を作っている。気軽に訪問していただける様、声掛けを行っている。来客時は、居室でゆっくりと過ごせる環境づくりに努めている。	知人・友人の面会が多く、居室でお茶を飲みながらゆっくり話している。家族の協力で受診や墓参り・自宅訪問・外泊等があり、必要時は送迎をしている。手紙や電話・家族の宿泊を支援し、家族との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶時間、レクリエーションでは、利用者同士が程よい距離感で過ごしやすい環境になるように配慮している。職員も同席し、利用者同士が関わりやすいように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に訪問していただける様に声掛けしている。退去された方が訪問されることがある。入院中の方へは、家族の相談を受けたり、入院先に面会に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の要望や、会話の中から見えてくる希望や思いに寄り添えるように努めている。言葉で伝えられなくなった方の声掛けもあきらめずに続けていることで反応が見られ、その思いをくみ取れるように努めている。	日常の会話や意思表示がし易い問いかけで本人の思いを把握するように努めている。困難な場合は、表情等から意向を汲み取り、家族と相談し本人中心の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人の方々から、そして他の利用機関からも情報を得ている。こだわり、生活パターンに目を向け、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムに合わせて、言葉や行動から思いに沿いながらできる限り残存機能を活用していただく支援に努めている。日々の様子を把握し変化に気づき、状況に合わせた支援を心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフが情報を共有しケアの方法を検討している。家族とは状況に応じて連絡を取り、面会時にも現状報告をし家族の意向をうかがい、随時相談しながらケアプランを立てている。	家族の面会時に担当者会議を実施し、主治医の意見を参考に介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月毎に、見直しも6ヶ月毎に実施している。日々の記録等から必要に応じて計画の手直しも行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の行動や会話など、事実に基づいて記録している。普段と異なった状況の時は、詳細に記録するように心がけ情報の共有をしている。ケアの見直しの際には、その都度カンファレンスを行い家族にも記録の提示を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気に近い生活を送っていただくために、利用者の思いに沿ってドライブ、買い物、散歩などに支援を行っている。外部受診時は家族に協力をいただき職員も同行している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週月要は食事介助、会話のボランティア、2か月に1回は車椅子ボランティアなど、地域支援をいただき、利用者とも顔なじみになり楽しみになっている。なじみの美容師の訪問がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回以上の定期受診以外にも体調不良時の早めの臨時受診を心掛けている。主治医、看護師にはいつでも相談できる体制を作っている。	契約時に本人・家族の希望するかかりつけ医を聞いている。母体の医療機関とは24時間医療連携体制が整っており、定期受診の他、訪問診療や必要時の往診も実施している。他科受診は家族に管理者が同行支援し、情報提供等を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 看護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段より利用者の変化に応じて報告相談を行ない、重症化しないよう早期対応に心掛けている。申し送りの中では、細かい気づきでも伝達記録し、チームでの情報交換を大事にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会に行き状況把握しスタッフ間での情報共有に努めている。気づきは看護師へ情報提供している。家族への声掛けも行い、退院後の受け入れ態勢がスムーズに行えるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、見取り支援の方針について個々へ説明を行い文書を渡している。重度化した状況によって、本人家族の希望と医師・看護師・介護士で話し合い、方向性を決めて支援している。できるだけ、本人・家族の思いに思いにそった支援を心掛けている。	契約時に重度化等の対応について説明し、意向確認書をもっている。重度化等の場合に医師・家族・看護師・管理者等で話し合い、意向を確認している。家族の意向に沿って支援に取り組んでおり、看取り期には同意書をもっている。看取り介護の実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々の病気を踏まえた急変時のマニュアルを職員全員で作成している。研修会や勉強会に参加し、知識や実践力を身に着けるようにしている。職員会議では、ヒヤリハットの検討や事故発生時の対応について意見交換を行い応用力につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策マニュアルがあり、年二回の防災訓練を実施している。また、地区の自主防災組織連絡ネットワーク構築事業に参加している。運営推進会議では報告し、意見を頂いている。</p>	<p>年2回の避難訓練を消防署の立ち会いのもと、昼夜想定で実施している。法人全体で1回実施し、1回は運営推進会議を兼ねてしている。地域のモデル事業に法人で参加しており、地域の協力体制の構築に取り組んでいる。災害時の水・スープや御飯の缶詰・食料品等を備蓄している。オムツやタオル・懐中電灯等をリュックに準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活歴や入居後の生活の中で得意なこと、好きなことへの支援をおこなっている。活動後には「労い」の言葉かけをしている。トイレ誘導は本人の意思を尊重し、無理な声掛けを行わず耳元でのさりげない声掛けを行っている。	研修を実施し、本人の意思やペースを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。自室のトイレに自分で行きたい時に行くことができ、自信につながっている。申し送りは簡潔に利用者へ内容が分からないように行い、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者から話し掛けやすい雰囲気作りをしている。一人ひとりの理解力に合わせて同じ目線で話し、活動の際は本人の希望にそって行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は個々のペース、その日の体調によりリズムを作っている。また、自由に居室で休んで頂いている。個々の趣味・興味のある事などを引き出しながら本人の希望に任せて動いてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	服装は可能な限り本人の意思で選択して頂く。外出時の更衣の支援も行っている。洗顔後、乳液を付けたり整髪で理容を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人からの希望、職員からの依頼に応じて下ごしらえ、お盆拭き、テーブル拭きなどを手伝って下さる。職員は入居者と会話しながら食事を一緒にとっていく。季節や行事によってメニューを変えたり、入居者の好物を取り入れている。	献立は、利用者の好みや旬の物を取り入れて作成している。管理栄養士に年1回評価してもらっている。利用者も一緒に下ごしらえや盛り付け・テーブル拭き等を行い、食事職員と摂っている。誕生日の好物・ケーキ、季節の行事食、外食、餅つき、保存食作り等に取り組み、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し確認しながら声掛けしている。調理は、個々に応じて摂取しやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を外して洗浄を行っている。自分でできる所まで見守り、仕上げを職員がしている。口腔内のうがいや清拭(ハミングッドで)を行いポリデントを使用する方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、自立行動の見守りや声掛けを行っている。できるだけ失敗のないように心がけ自立度に応じて終日に布パンツや自ら訴えられない方も日中はトイレでの排泄支援をしている。	排泄パターンを把握し、耳元での声かけや移動時の付き添いを行っている。日中は自室トイレでの排泄を基本に支援しており、リハビリパンツから布パンツに改善したり、排泄の失敗がなくなった例がある。夜間は安心の為、ポータブルトイレを準備する利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自力排便できるように水分摂取に気を付けている。毎日ヨーグルトを飲んで頂いており、その他・オリゴ糖・牛乳等取り入れている。排便を促すための腹部マッサージ、下剤の服用を行いできる範囲で運動、ストレス除去に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	リラックスして入浴して頂く為に個々の意思を尊重した支援をしている。(1日2～3名)前身の皮膚状態の観察、変化にすぐ対応している。入浴中のコミュニケーションにも心掛けている。	週2回の入浴を基本に午後の時間帯で、体調に応じて清拭や足浴も実施している。家族と温泉に行く利用者もあり、入浴をゆっくりと楽しんでもらえるようにしている。脱衣室の近くにトイレも設置している。嫌がる場合も無理強いせず、衣類交換や部分清拭で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活ペースを把握し、表情や体調を見ながら、無理のないように休んで頂いている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、個々の服薬はファイルに保管し、毎朝服薬前に確認している。(臨時薬含む)誤薬の無いように、声に出して確認し飲み込まれるまで服薬を見守る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事を計画し、心身ともに楽しみを感じ取れるように努めている。できる事、できない事を把握し役割を生活の中で大切にしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出希望にそって出来るだけの支援に努めている。自主的に準備できるように声掛けと支援を行っている。ご家族にも協力を頂き、気分転換となる機会を作っている。	散歩は車椅子で出かけている。職員から声を掛けて買い物に出かけたり、敷地内で花見をするなど、できるだけ閉じこもらないようにしている。計画を立てて、外食やドライブに出かけたり、家族の協力で墓参りや外食・温泉・自宅訪問・外泊等に出かけており、送迎をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により、お金を所持されている方は少なくなった。外出時には、自身で支払える機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方にいる家族へ手紙を書かれる方もいる。年賀状はそれぞれが家族に書いていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレ・洗面台の設置があり、毎日掃除を行い清潔を保っている。リビングには、花を飾り、季節の物を置き明るい雰囲気作りを心掛けている。また、個々の導線に配慮した家具の配置としている。	事業所内は掃除が行き届き清潔である。空調も適度に調節されている。リビングから広いベランダに繋がっており開放感がある。壁に飾られた手作り作品や窓から見える山々の景色から季節を感じられる。ゆったりと落ち着いた室内に、ソファや畳スペースなどがあり、好みの場所でくつろげるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂は、気軽に通れるように開放的になっている。一人ひとり、それぞれ好きな場所で過ごせる居心地の良い空間となるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、本人の使い慣れたもの（タンス・テレビなど）を持参してもらい、馴染みのあるものに囲まれて過ごせるよう配慮している。家族の写真や季節の花鉢等を飾ったりしている。面会時には居室にお茶を運び、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。家族がいつでも泊まれるように準備をしている。	トイレ・洗面台・電動ベッド・エアコンのある居室で、家族の宿泊時は簡易ベッドも置ける広さである。タンスやテレビ・洋服掛け等の使い慣れた家具や寝具を置いたり、ぬいぐるみ・写真等の身の回りの物を飾って、本人が落ち着いて過ごせる部屋作りをしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>センサー式足元点灯やナースコールを設置し個々に応じて呼び鈴も活用している。共同空間は安全と活動性を考えて配置している。座席を定めず、利用者の気持ちを尊重しながらテーブル席やソファなど、それぞれが過ごしやすい場所で過ごしていただく。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない